

## 第2回 リニア駅周辺整備デザイン会議 次第

平成30年3月23日(金)午後2時～  
飯田市役所C311・312・313号会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 伊那谷自治体会議報告

資料1

4 協議・報告事項

(1) 第1回デザイン会議から本日までの経過

資料2～6

(2) 今後のスケジュール

資料7

(3) (仮称) リニア駅前空間デザインノート(案)

資料8

(4) 重点協議区域について

5 閉 会



# リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議 次 第

〔 日 時 平成 29 年 11 月 13 日 (月) 14:00～15:30 〕  
〔 場 所 伊那合同庁舎 講堂 〕

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 報告事項

(1) リニアに関する国等の動きについて

(2) リニア駅周辺整備の状況について

## 4 協議事項

(1) リニア駅と伊那谷各地との移動の考え方について

ア 来訪者視点・居住者視点

イ JR飯田線乗換新駅の設置

(2) 伊那谷と都市圏との対流促進に向けた取組について

## 4 その他

## 5 閉 会

別添 関連資料 1 の説明

1. 伊那谷の**主要観光地(緑)**をプロット
  - 観光者数の規模を円の大きさで表現  
(H27観光地利用者統計調査)
2. 拠点性を有する地域の**交通結節点**をプロット
  - 道の駅 (オレンジ)
  - 在来線主要駅 (ブルー)
3. 上記 2 を中心に半径10kmの円を描写(緑円)



来訪者視点

- リニア駅と目的地を直接つなぐ (直行便)
- リニア駅と地域の交通結節点をつなぎ、さらに交通結節点から目的地をつなぐ  
(リニア駅 ⇄ 地域の交通結節点 ⇄ 目的地)

別添 関連資料 2 の説明

1. 伊那谷の人口集中地区\*をプロット
  - H27国勢調査を反映
2. 拠点性を有する地域の**交通結節点**をプロット
  - 道の駅 (オレンジ)
  - 在来線主要駅 (ブルー)
3. リニア駅を中心として、移動方面別に着色
  - ➔ 概ねエリアごとの交通ネットワーク構築を検討

\*人口集中地区(DID): 原則として、①人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境界内で互いに隣接し、②それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有するこの地域



居住者視点

- リニア駅を中心に、移動方面別に拠点性を有する地域の交通結節点を核とした交通ネットワークを形成する
- 将来に向けた地域の交通及び来訪者の移動等と一体的に検討する

論点・検討の方向性のまとめ

1. リニア駅とつなぐ

- ① 地域の交通結節点の拠点性向上
- ② リニア駅と伊那谷各地との移動  
(来訪者と居住者の視点を考慮した交通ネットワークと移動手段)

反映

■ 交通の視点・関連要素

- アクセス調査の結果
- 交通関係の各種検討会や実証実験の成果
- 交通事業者との意見交換
- 自動運転技術・制度の動向

■ 観光の視点・関連要素

- 来訪の目的となり得る魅力的な観光資源の創出・認知の向上

2. 飯田線活性化

- ① 速達性・利便性向上
- ② 観光資源としての活用  
➔ 別添「地域課題検討の視点」参照

連携

- 関係機関との連携  
(JR飯田線活性化期成同盟会、広域DMO等)

3. 乗換新駅設置

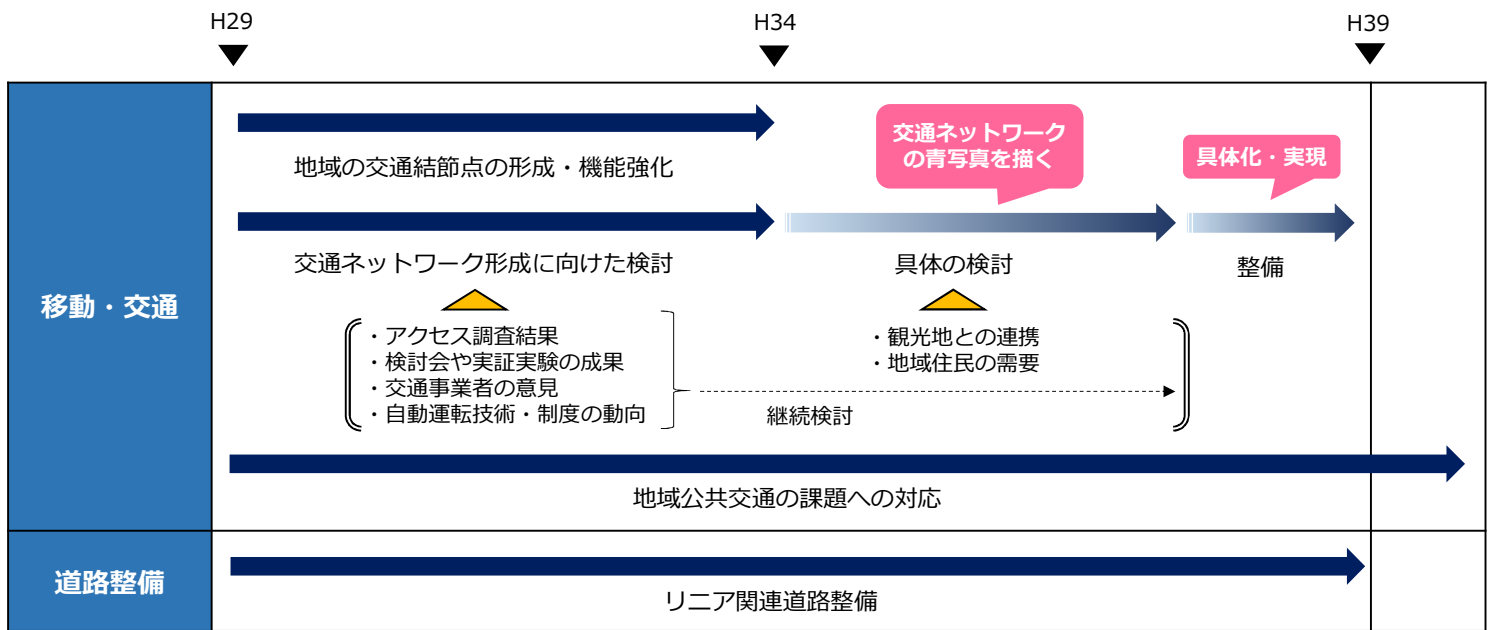
- 設置に向けた協議開始
  - ・ J R 東海との具体的な内容検討
  - ・ 費用負担のあり方

協議

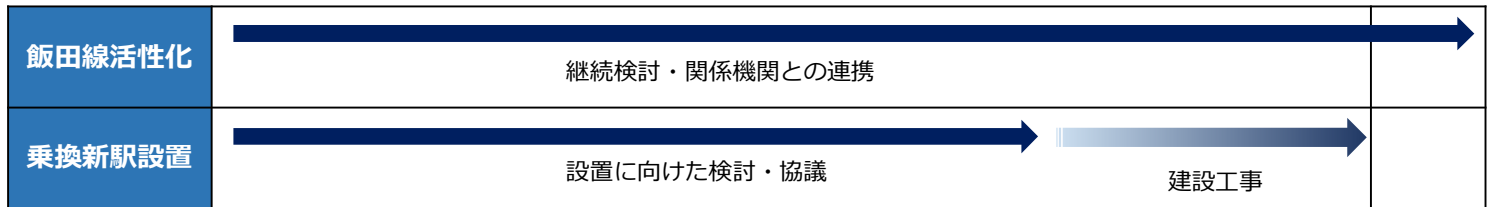
- J R 東海との協議、課題の共有



# 検討スケジュール（案）



## 飯田線関係

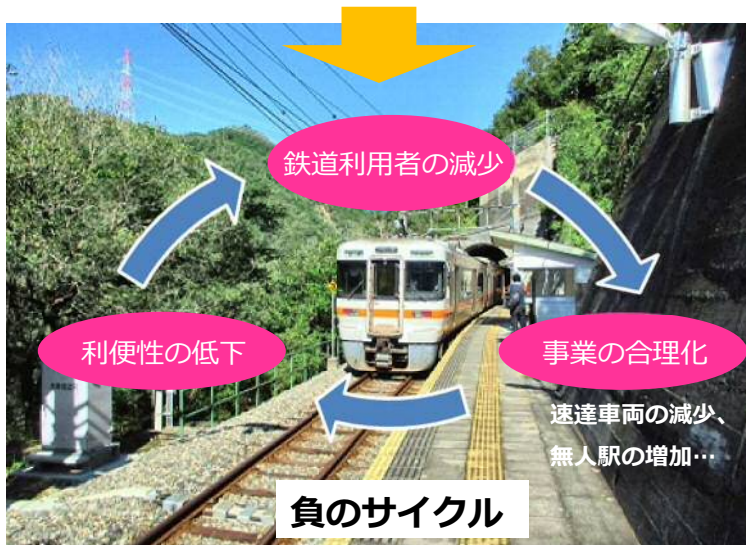


3

## 「地域多様性と課題」の検討例

### 〔JR飯田線の場合〕

交通環境の変化  
(自動車利用の増加など)



劇的な高速化や本数の増加は難しい



**特性を活かした取り組みの必要性**

飯田線は、全国的に  
**『秘境駅』**  
として認知度が高い



駅の周囲は自然だけ。  
中には1日の平均利用者が0人という駅も…。



リニア開通を見据え、  
飯田線を**観光資源**としてPRできないか。

**課題 → 地域多様性**

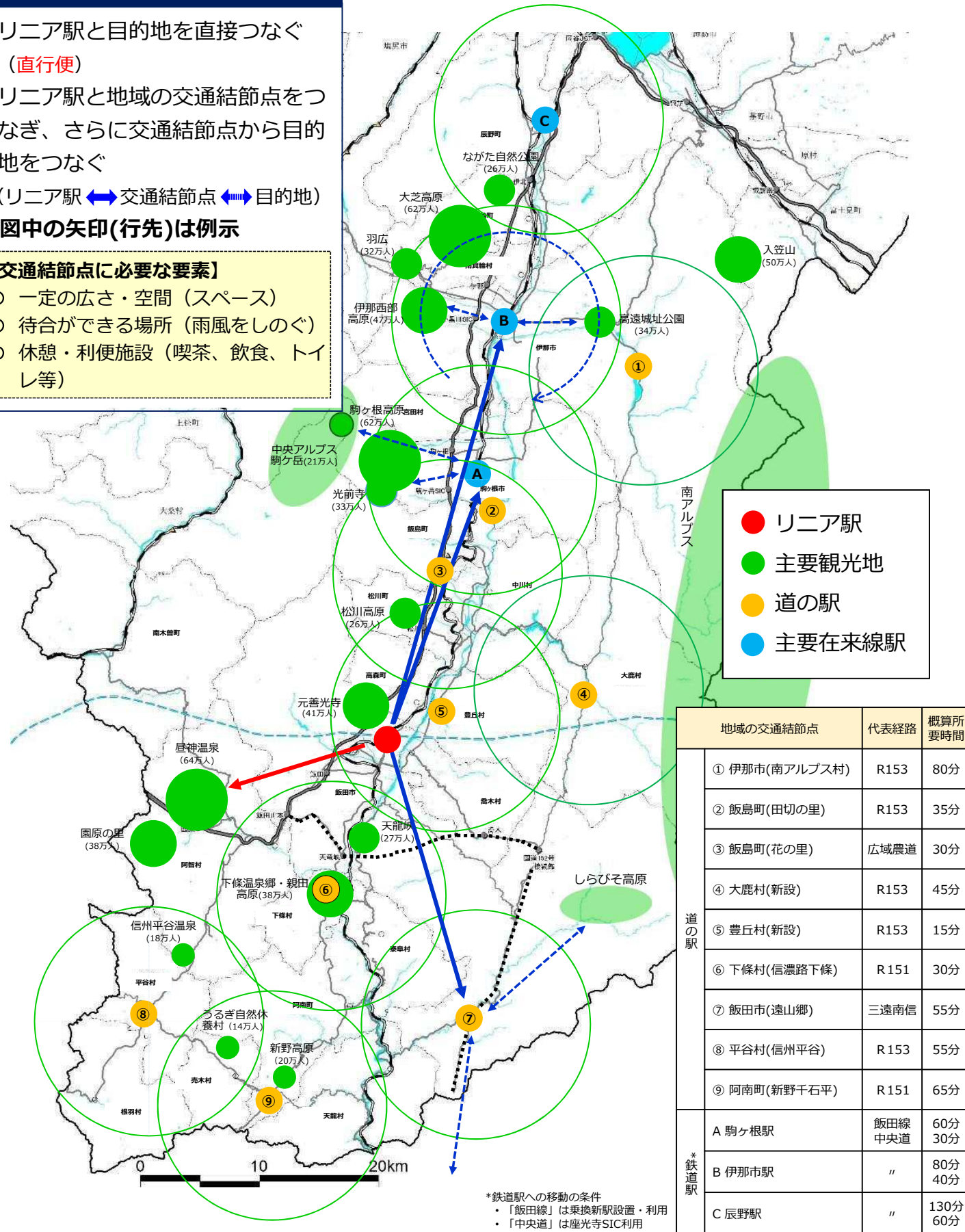


リニア駅からの移動

- リニア駅と目的地を直接つなぐ(直行便)
- リニア駅と地域の交通結節点をつなぎ、さらに交通結節点から目的地をつなぐ(リニア駅 ↔ 交通結節点 ↔ 目的地)
- 図中の矢印(行先)は例示

【交通結節点に必要な要素】

- 一定の広さ・空間(スペース)
- 待合ができる場所(雨風をしのぐ)
- 休憩・利便施設(喫茶、飲食、トイレ等)



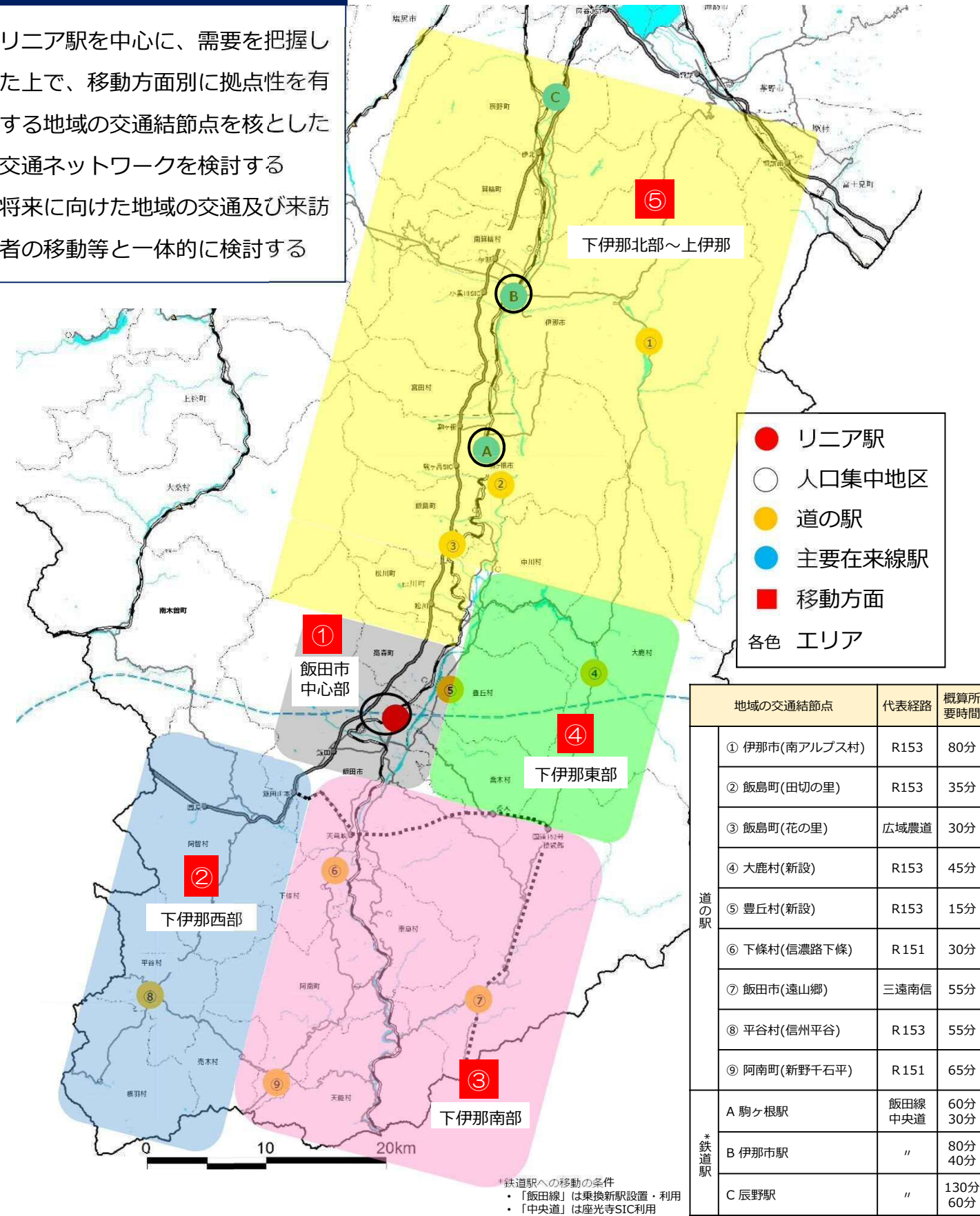
- リニア駅
- 主要観光地
- 道の駅
- 主要在来線駅

	地域の交通結節点	代表経路	概算所要時間
道の駅	① 伊那市(南アルプス村)	R153	80分
	② 飯島町(田切の里)	R153	35分
	③ 飯島町(花の里)	広域農道	30分
	④ 大鹿村(新設)	R153	45分
	⑤ 豊丘村(新設)	R153	15分
	⑥ 下條村(信濃路下條)	R151	30分
	⑦ 飯田市(遠山郷)	三遠南信	55分
	⑧ 平谷村(信州平谷)	R153	55分
	⑨ 阿南町(新野千石平)	R151	65分
*鉄道駅	A 駒ヶ根駅	飯田線中央道	60分 30分
	B 伊那市駅	"	80分 40分
	C 辰野駅	"	130分 60分

\*鉄道駅への移動の条件  
 ・「飯田線」は乗換新駅設置・利用  
 ・「中央道」は座光寺SIC利用

リニア駅への移動

- リニア駅を中心に、需要を把握した上で、移動方面別に拠点性を有する地域の交通結節点を核とした交通ネットワークを検討する
- 将来に向けた地域の交通及び来訪者の移動等と一体的に検討する



- リニア駅
- 人口集中地区
- 道の駅
- 主要在来線駅
- 移動方面
- 各色 エリア

	地域の交通結節点	代表経路	概算所要時間
道の駅	① 伊那市(南アルプス村)	R153	80分
	② 飯島町(田切の里)	R153	35分
	③ 飯島町(花の里)	広域農道	30分
	④ 大鹿村(新設)	R153	45分
	⑤ 豊丘村(新設)	R153	15分
	⑥ 下條村(信濃路下條)	R151	30分
	⑦ 飯田市(遠山郷)	三遠南信	55分
	⑧ 平谷村(信州平谷)	R153	55分
	⑨ 阿南町(新野千石平)	R151	65分
*鉄道駅	A 駒ヶ根駅	飯田線中央道	60分 30分
	B 伊那市駅	"	80分 40分
	C 辰野駅	"	130分 60分

\*鉄道駅への移動の条件  
 ・「飯田線」は乗換新駅設置・利用  
 ・「中央道」は座光寺SIC利用

# J R 飯田線乗換新駅の今後の予定について

平成29年11月13日  
伊那谷自治体会議資料

飯田市

## 1 目的

「リニア駅周辺整備基本計画」では、リニア長野県駅が広域交通拠点としての役割を果たすため、リニアとJR飯田線の相互を円滑に乗り換えられるよう、新駅の設置を検討するとしている。また、長野県が策定した「長野県リニア活用基本構想」においても、伊那谷地域の産業振興と暮らしの魅力向上、広域観光の推進のために、地域の生活拠点や観光拠点などを結ぶ鉄道と道路の存在は欠かせないとし、JR飯田線の活用を基盤整備の方針の一つに掲げている。

そこで、リニア中央新幹線と飯田線の利用者の利便性を高めるため、請願駅として新駅を整備することについて検討・協議を進める。

## 2 計画箇所

座光寺上郷道路・土曾川付近（別紙）

- ・リニア駅（改札口）からの移動距離が短く、平坦であること。
- ・新駅整備にあたり、移転家屋が生じないこと。
- ・県道でリニア駅・新駅間を移動でき、新駅のための新たな道路整備が必要ないこと。

## 3 想定される施設の概略

### (1) 概要

駅形式 : 棒線停車場（1面1線形式）  
線路数 : 単線（すれ違い機能なし）

### (2) 概算事業費（飯田市推定）

新駅建設費 : 5～6億円程度  
歩道シェルター整備費 : 2億円程度

## 4 今後の予定・課題

### (1) 事業手法・財源の検討

- ・国庫補助制度の活用を踏まえて事業手法や財源の検討

### (2) JR東海との協議・調整

- ・新駅設置は既設鉄道施設の改修等を伴うことから事業者との協議が必要





位置図

別紙



## JR 飯田線乗換新駅設置に向けての検討の流れ

リニア整備推進局

年月	飯田市	自治体会議	JR 東海
H28. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市長から設置表明</li> <li>・県及び上下伊那からの検討への協力を依頼</li> </ul>	左記について了承	
H29. 1		プロジェクトチーム設置 【検討】	
↳		↓	
H29. 6	リニア駅周辺整備計画に乗換駅の整備エリア記載		
H29.10	地元住民への説明会開催		
H29. 11		13日（月） 「伊那谷自治体会議」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田市から検討経過及び内容を報告</li> <li>・JR 東海に対して正式に協議を求めていくことを自治体会議として確認</li> </ul>	
H29年度内	JR 東海へ協議具体化に向けての申入れ		申入れ →
H30年度以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造検討</li> <li>・駅周辺整備との連携</li> <li>・地元との調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用負担のあり方</li> <li>・飯田線活性化策の検討(飯田線活性化協議会との連携)</li> </ul>	← 協議・調整 →



## 首都圏の企業から見たリニア長野県駅

リニア整備推進局

### 1 伊那谷への立地の決め手となる条件は何か？

- リニアの長野県駅を知らないので答えられない。
- リニアが開通するという理由だけでの立地検討や進出は難しい。
- 物流状況が向上すれば検討の余地もある。
- 自然環境が良く魅力はある。

### 2 立地する場合にはどのような施設や機能が想定できるか？

- 開業の実感が湧かないことから、質問には答えられない。
- リニア開業後の駅周辺の施設、交通網、用地等の全体が見えないと検討が難しい。
- 豊かな自然や居住環境、大都市圏との近接性、業務の機能分散などの観点から、**研究・開発拠点、ICT関係、サテライトオフィス**が考えられる。
- 企業BCPについては、本社や取引先との距離等を踏まえ幅広く検討している。

### 3 その他の意見

- 立地した場合、通勤も可能だが二次交通が重要
- 今は、オリンピック・パラリンピックを見据えて動いている。
- **先進的な企業は働く場所にこだわらなくなってきている。10年後は更に加速するのではないか。**
- 地域には、労働力・人材の確保・支援などの**バックアップ**をしてほしい。
- **森の里親制度**に興味がある。

### 4 聞取調査担当者の所感

- 立地先等の魅力としては、ほとんどの企業が豊かな自然環境を挙げており強みと言えるが、**逆にそれ以外の項目が出てきていない。**
- 立地を具体的に検討するには、**現在の状況では情報が少ない**ため様々な分野でのPRが必要。

# 伊那谷自治体会議勉強会について

長野県リニア整備推進局

## 1 概要

- リニア中央新幹線開業に向けた地域づくりに寄与することを目的に平成 26 年度から開催
- 今年度は、平成 30 年 1 月 25 日（木）に飯田市内で開催し、行政関係者、商工経済団体、交通事業者、住民等、約 160 名が出席
- 講師及び講演内容は下記 2 のとおり
- 伊那谷自治体会議において主に議論されている、リニア開通を見据えた交通体系について、J有識者から全国の事例などを踏まえながら提言等をいただいた。また、国におけるリニア関連構想の検討状況について、これまでの国土形成計画の変遷を踏まえつつ紹介いただいた。

## 2 講師

- **交通ジャーナリスト** すずき ふみひこ **鈴木 文彦 氏**

演題：『リニア開通を見据えた伊那谷の交通体系について』

### 【講師略歴】

昭和 31 年生まれ。東北大学理学部を経て、東京学芸大学大学院（地理学）を修了。フリーの交通ジャーナリスト、NPO 法人日本バス文化保存振興委員会理事長。雑誌『鉄道ジャーナル』などにレギュラーとして執筆するほか、バス・鉄道に関する論文・取材記事多数。公共交通全体の問題に関する第一人者として地方自治体やバス事業者におけるアドバイザーや講演活動も行なう。国土交通省「地域公共交通の活性化及び再生の将来像を考える懇話会」委員など公職を務めた。

- **国土交通省 国土政策局 総合計画課長** きむら みのる **木村 実 氏**

演題：『国土政策の最近の動向 ～国土計画の変遷とこれからの視点～』

### 【講師略歴】

昭和 39 年生まれ。平成元年に旧国土庁入庁。金沢市都市政策部交通対策課長、復興庁統括官付参事官、国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課長などを歴任し、平成 29 年 7 月から現職。

- **国土交通省 国土政策局 計画官** まし ひろゆき **岸 弘之 氏**

演題：『国土政策の最近の動向 ～スーパー・メガリージョン構想について～』

### 【講師略歴】

昭和 39 年生まれ。平成元年に旧運輸省入省。国土交通省国土計画局総合計画課企画専門官、徳島県県土整備部運輸局長、（一財）沿岸技術研究センター 研究主幹などを歴任し、平成 30 年 1 月から現職。





## 経過報告

## H29. 7. 20 第 1 回リニア駅周辺整備デザイン会議

- ① 市長挨拶
- ② 設置要綱説明
- ③ 伊那谷自治体会議の報告
- ④ 検討体制とスケジュール説明

## 7. 20 第 1 回学識経験者専門委員会

- ① 検討体制とスケジュール説明
- ② リニア駅周辺整備基本設計公募型プロポーザル審査委員会設置
- ③ プロポーザル実施要領、特記仕様書の検討

## 8. 23 第 2 回学識経験者専門委員会

- ① プロポーザル実施要領、特記仕様書、評価項目と配点の検討

8. 31 プロポーザル公告

9. 19 プロポーザル参加表明書提出期限（3 者参加）

## 10. 24 リニア駅周辺整備基本設計公募型プロポーザル第 1 次審査委員会

- ① 参加チーム（3 者）の第 1 次審査（書類審査）

## 11. 8 リニア駅周辺整備基本設計公募型プロポーザル第 2 次審査委員会

- ① 参加チーム（3 者）の第 2 次審査（公開プレゼンテーション）

11. 24 リニア駅周辺整備基本設計公募型プロポーザル契約

## 12. 14 第 3 回学識者専門委員会

- ① チームの業務体制
- ② 業務工程と進め方
- ③ チームの提案内容説明
- ④ ワークショップについて

## H30. 2. 7 第 4 回学識者専門委員会

- ① 第 3 回専門委員会の対応状況と進め方の確認
- ② ワークショップについて

## 2. 21 第 1 回ワークショップ

- ① 進め方ガイダンス
- ② グループ意見交換
- ③ グループ意見発表
- ④ 全体意見交換とまとめ

## 3. 9 第 5 回学識者専門委員会

- ① ワークショップ結果
- ② 基本設計の検討状況
- ③ デザインノート案について
- ④ デザイン会議について



平成 29 年 11 月 28 日

## リニア駅周辺整備基本設計業務 公募型プロポーザル 選定結果および審査委員会総評

飯田市

飯田市では、「リニア駅周辺整備基本構想」および「リニア駅周辺整備基本計画」に基づき、これを具体化するための基本設計業務に関わる事業者を選定する公募型プロポーザルを実施しました。

審査委員会による厳正かつ公平な審査の結果、次の者を優先交渉権者として選定し、契約締結の交渉を経て、基本設計業務の受託者として決定しましたので、以下の通りお知らせします。

### 1. 公募型プロポーザルの趣旨及び目的

飯田市では、リニア中央新幹線開業に向けてリニア駅周辺地区の整備に関する「リニア駅周辺整備基本構想」（以下「基本構想」といいます。）を平成 27 年 6 月に策定し、それに基づいて「リニア駅周辺整備基本計画」（以下「基本計画」といいます。）を平成 29 年 6 月に策定しました。

この基本計画には、リニア駅周辺整備区域の整備コンセプトとして、①機能的でコンパクトな駅空間、②信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間、③自然との調和を目指した駅空間、④地域と一体化した駅空間の 4 つを定めるなど、基本的な事項を定めました。

そこで、基本計画において定めたこれらの基本的事項を、基本設計としてより具体的に練り上げるために、土木、建築、都市計画、ランドスケープ、環境・エネルギー、コミュニティデザイン、公民連携の各分野において優れた設計チームを選ぶことが極めて重要であると考えます。

以上を踏まえ、リニア駅周辺整備基本設計業務を委託するにあたり、当市の特性を理解し、各施設の基本設計に対する意欲・情熱を持ち、卓越した技術を有する設計チームを選考するため、本実施要領により広く企画提案を募集し、最も適切な事業者を本業務の受託者として選定することを目的として公募型プロポーザルを実施しました。

### 2. 優先交渉権者および次点者

#### <優先交渉権者>

154 番 代表事業者 中央コンサルタンツ株式会社 飯田事務所  
(中央コンサルタンツ株式会社・株式会社設計領域・株式会社三菱地所設計 チーム)

#### <次点者>

672 番 代表事業者 株式会社建設技術研究所 長野事務所  
(株式会社建設技術研究所・株式会社日総建 チーム)

### 3. 受託者

代表事業者 中央コンサルタンツ株式会社 飯田事務所  
(中央コンサルタンツ株式会社・株式会社設計領域・株式会社三菱地所設計 チーム)

#### 4. 受託者業務配置体制

役割	氏名	所属
チームリーダー	しまだ まさのり	中央コンサルタンツ(株)本店 都市整備部
	島田 正徳	
土 木	くれまつ としひろ	中央コンサルタンツ(株)本店 都市整備部
	樽松 俊宏	
	ますだ のりお	中央コンサルタンツ(株)本店 都市整備部
増田 典生		
建 築	しんぼり だいすけ	株式会社 設計領域
	新堀 大祐	
	いまむら ゆうき	株式会社 設計領域
	今村 雄紀	
みずたに まこと	株式会社三菱地所設計名古屋支店	
水谷 誠		
都市計画	くわじま ひろし	中央コンサルタンツ(株)本店 都市整備部
	桑嶋 博史	
	いそわ けいた	中央コンサルタンツ(株)本店 都市整備部
磯輪 恵太		
ランドスケープ	よしたに たかし	株式会社 設計領域
	吉谷 崇	
	しばた あやか	株式会社 設計領域
柴田 純花		
環境エネルギー	いしぐる しげき	中央コンサルタンツ(株)本店 技術監理部
	石黒 茂樹	
	やまぐち たかお	株式会社三菱地所設計名古屋支店
山口 隆生		
コミュニティ デザイン (合意形成)	にい あきよし	国土館大学 理工学部まちづくり学系准教授
	二井 昭佳	
	いずみ ひであき	有限会社ハートビートプラン
	泉 英明	
なかしま しんいちろう	中央コンサルタンツ(株)本店 都市整備部	
中島 慎一郎		
公民連携	いながき たかまさ	中央コンサルタンツ(株)本店 都市整備部
	稲垣 貴政	
	おがわ とおる	中央コンサルタンツ(株)本店 都市整備部
小川 徹		

## 総 評

リニア駅周辺整備基本設計業務  
公募型プロポーザル審査委員会  
委員長 小澤 一郎

今回の公募型プロポーザルは、これまでに策定されたリニア駅周辺整備における基本構想や基本計画の内容を、基本設計においてより具体的なものとするため、土木、建築、都市計画、ランドスケープ、環境・エネルギー、コミュニティデザイン、公民連携の各分野において優れた設計チームを選定することを目的として実施しました。

また審査にあたっては、企画提案におけるプランやデザインをそのまま採用するのではなく、あくまで飯田市民や行政、あるいはリニア駅周辺整備デザイン会議にとって、一緒に取り組んでいけそうな良きパートナーとして適正かどうか、その取り組み姿勢が大事であるとともに、まさにそうした能力を持ち合わせているか、という点に主眼を置いて審査を行いました。

基本設計業務について、平成 29 年 8 月 31 日にプロポーザルの公告を行ったところ、3 者から応募がありました。いずれの提案も独自の技術や創意工夫の点が見られ、このような企画提案書の作成には多大な労力や費用負担があったことが想像されます。提案をまとめた応募者の熱意に敬意を表するとともに感謝いたします。

当審査委員会においては、「公募型プロポーザル実施要領」および「特記仕様書」、「評価項目及び基準表」に基づいて厳正に審査を行い、応募者番号 154、中央コンサルタンツ株式会社飯田事務所の設計チームを優先交渉権者として選定しました。

応募者番号 154 の提案については、各審査委員から以下のような評価がなされました。

- ・ 市民参加プロセスの提案について、テーマとして必要な内容を具体的に提案されていたので非常に良かったと思います。全体として何をやらなくてはいけないかという課題を捉え、一定の整理提案を行うとともに、市民参加、とくに地域の人達が主体的に使っていくことに重きを置いた提案をしているという点を評価しました。
- ・ 基本計画を踏まえた上で独自の新しい提案が盛り込まれており、飯田市およびリニア駅周辺整備デザイン会議とともに、リニア駅周辺整備を行う連携事業者として、適正との印象を受けました。
- ・ 駅コンコースの高さを見直すといった条件を変えるような新しい提案も見られました。提案の妥当性については、今後詳細な検討が必要ですが、新しい提案を盛り込みながら説得力のあるプレゼンをした事は評価できます。
- ・ 交通モビリティの変化や、駐車場を利用状況に応じて広場に変える可能性といった視点を置いて提案した点も評価しました。開業までの市民参加については各社提案していましたが、開業後の市民参加の可能性について具体的に社会実験を行い、担い手を作るところまで提案しており、その点も評価しました。ただ、広場の使い方については、外から訪れる人達の利用についても検討を深めることが課題です。

- ・ 審査をする上で特に注目した点は、企画提案やプレゼンテーションに反映されていなくても、指摘すれば直るかどうかという専門技術力を持っているか、また柔軟な意思疎通ができるコミュニケーション能力を持っているか、という2点を見ました。主に受け答えをしていた担当者は非常に反応が良く、設計に関する多くの審査委員の質問に対しても、かなり詳細にしっかりイメージを持って回答しており、一番評価が高い部分でした。間違い等があっても、ここはちょっと違うという、こちらからの指摘に対して、より良い案にすぐに対応してくれるという意味で、非常に高く評価しました。もちろん専門技術力も、デザイン力も備えられていると判断しました。

この選定結果を踏まえ、優先交渉権者に選定された中央コンサルタンツ株式会社と飯田市との間で交渉が行われ、基本設計業務の委託契約が締結されました。今後は受託者として基本設計業務に従事していただくこととなりますが、同社におかれては、本事業の基本構想及び基本計画に沿った基本設計業務を真摯かつ誠実に実施するという姿勢を持って取り組まれることを求めます。また、飯田市及び地域の方々と良好なパートナーシップを構築し、公共の福祉向上のため、一層努力されることを期待します。

最後に、受託者にすべてを任せきりということではなく、市民の皆さんが高い意識を持ち、関心を持って取り組んでいく必要があります。こうした取組みが展開されるよう飯田市やデザイン会議において、具体的な検討を行うことが必要です。

発言するだけでなく、関心を持つ市民の方々が責任ある姿勢で参加していただけると、非常に良いと考えます。飯田市民の意識の高さや、やる気の強さが、パートナーである受託者をやる気にさせ、市民の皆さんと一緒に、専門的な知見を総動員して、より良いものにしていけるよう期待します。

## <参考> 公募型プロポーザルの実施経過等

### 1. 実施経過

平成 29 年 8 月 31 日	本プロポーザルの実施公告
平成 29 年 9 月 12 日	質問に対する回答
平成 29 年 9 月 20 日	参加資格審査及び結果通知
平成 29 年 10 月 13 日	企画提案書の提出期限
平成 29 年 10 月 24 日	第 1 次審査
平成 29 年 10 月 26 日	第 1 次審査結果通知
平成 29 年 11 月 8 日	第 2 次審査
平成 29 年 11 月 8 日	第 2 次審査最終結果公表

### 2. 応募者数

応募者数 3 者

### 3. 公募型プロポーザル審査委員

委員長	小澤 一郎（公益財団法人都市づくりパブリックデザインセンター顧問）
副委員長	北川原 温（東京芸術大学美術学部建築科教授）
委員	瀬田 史彦（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授）
委員	大西 達也（一般財団法人日本経済研究所常務理事地域創造業務統括 地域未来研究センター長兼調査局長）
委員	鈴木 弘司（名古屋工業大学大学院工学研究科社会工学専攻准教授）
委員	上原 三知（信州大学総合理工学研究科准教授）
委員	佐藤 健（飯田市副市長）
委員	北沢 武人（飯田市リニア推進部長）







**リニア駅周辺整備基本構想**

ローカル グローバル ゲートウェイ  
**信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口**

《基本方針1》 来訪者の移動を支援する“高度なトランジットハブ”を形成する  
 《基本方針2》 駅機能の拡大に向け、交通アクセス及びネットワークの強化を進める  
 《基本方針3》 信州・伊那谷らしさを感じられる景観づくりを進める  
 《基本方針4》 信州・伊那谷ブランドを強化し、発信する



**整備コンセプト**

① 機能的でコンパクトな駅空間      ② 信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間

③ 自然との調和を目指した駅空間      ④ 地域と一体化した駅空間

**留意する項目**

- 新たなエネルギーをはじめ、再生可能エネルギーの活用を含めた低炭素な駅空間を目指します
- 将来的な技術革新、来訪者ニーズの変化等に対応できる柔軟性のある施設の検討や、多面的な機能を備えた駅空間を目指します
- 災害時のバックアップに対応する駅空間を目指します

**整備コンセプト**

① 機能的でコンパクトな駅空間      ② 信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間

③ 自然との調和を目指した駅空間      ④ 地域と一体化した駅空間

**留意する項目**

- 新たなエネルギーをはじめ、再生可能エネルギーの活用を含めた低炭素な駅空間を目指します
- 将来的な技術革新、来訪者ニーズの変化等に対応できる柔軟性のある施設の検討や、多面的な機能を備えた駅空間を目指します
- 災害時のバックアップに対応する駅空間を目指します



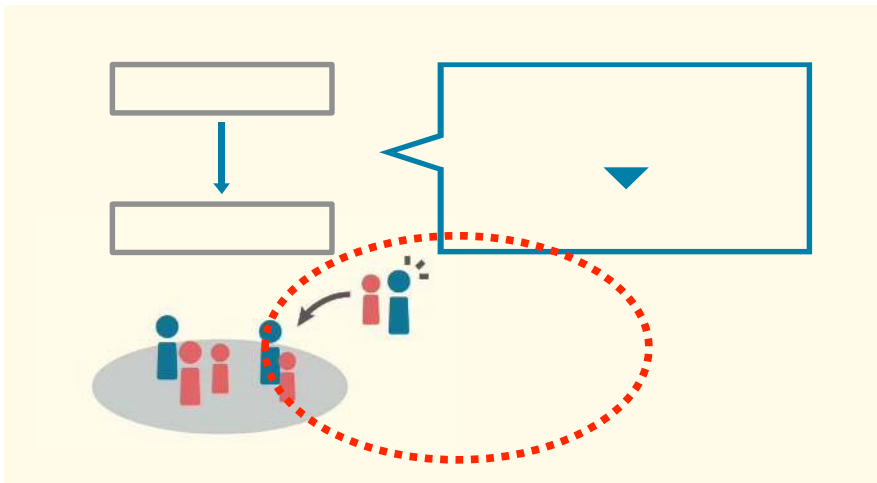
1. 「風景」を結う



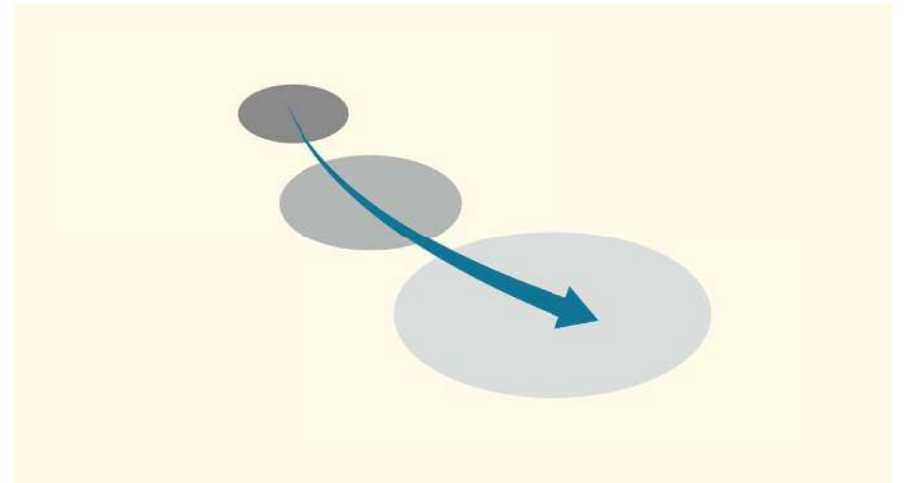
2. 「暮らし」を結う

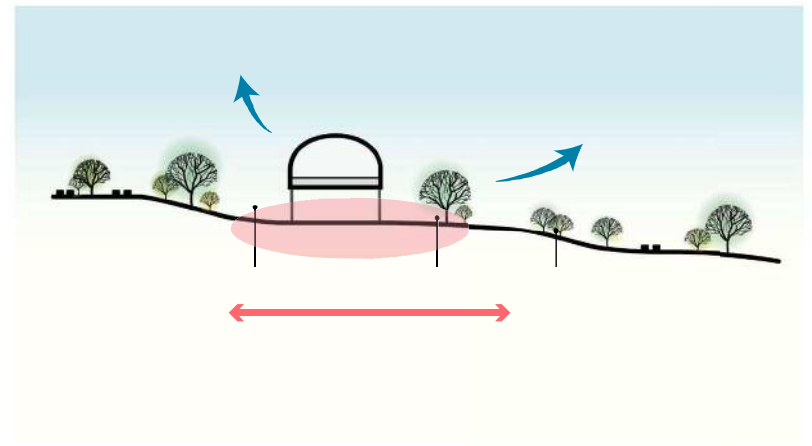
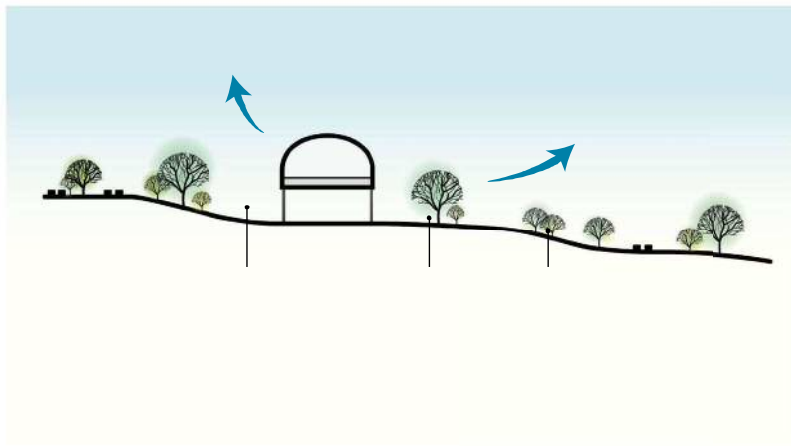
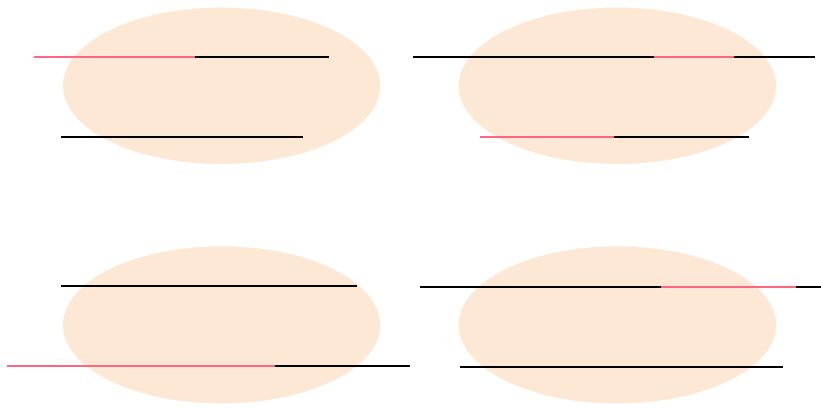


3. 「人々」を結う

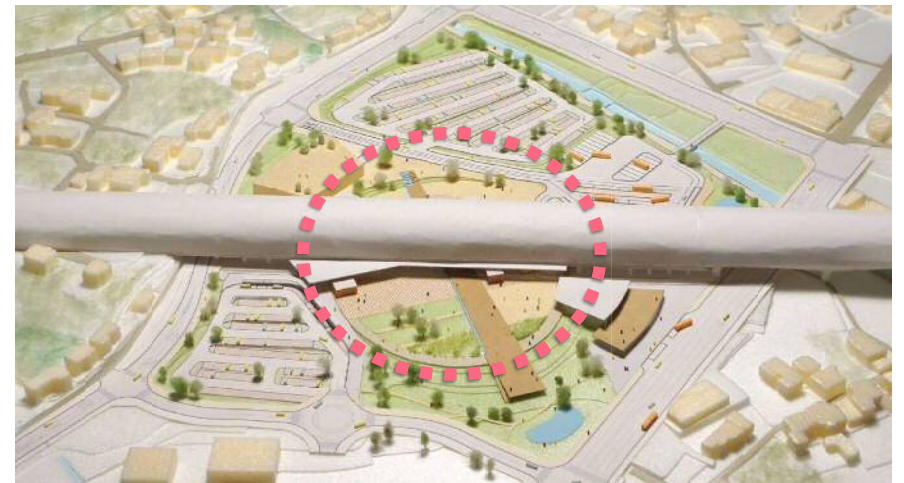
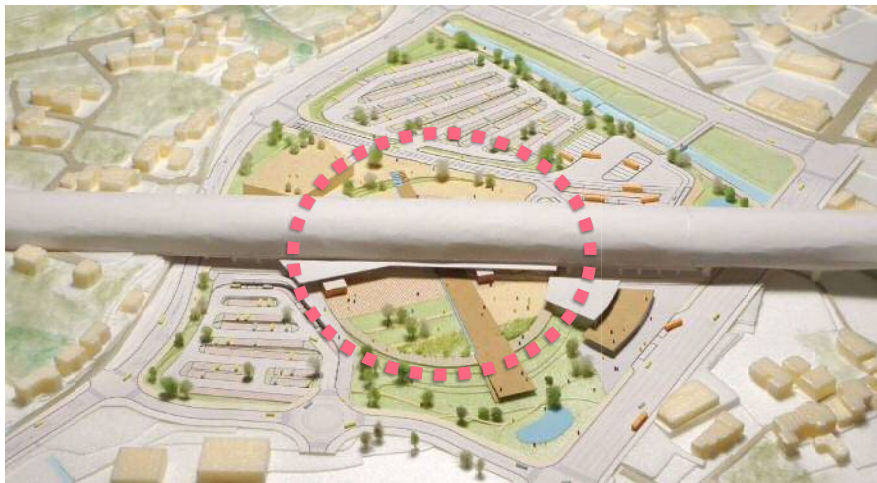
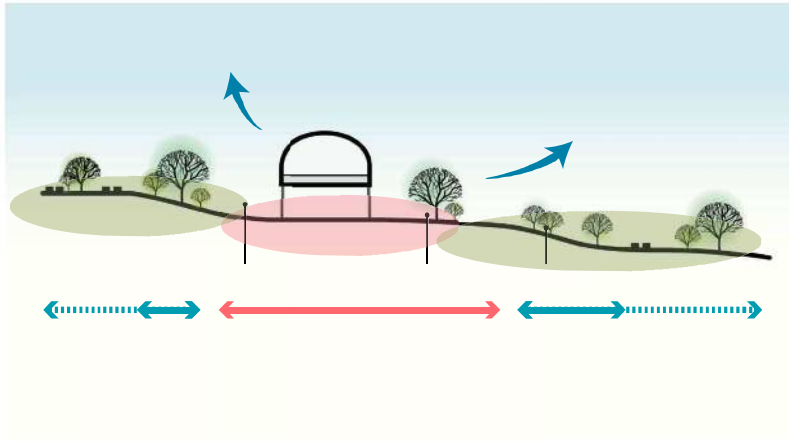


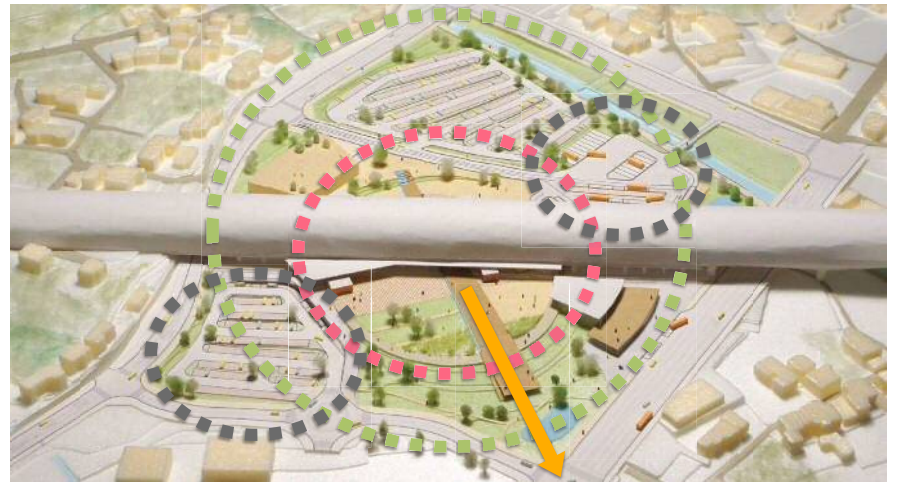
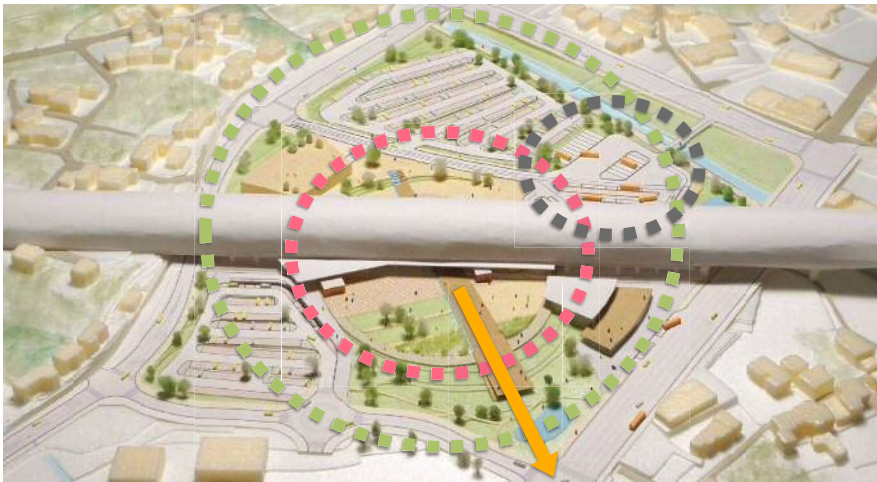
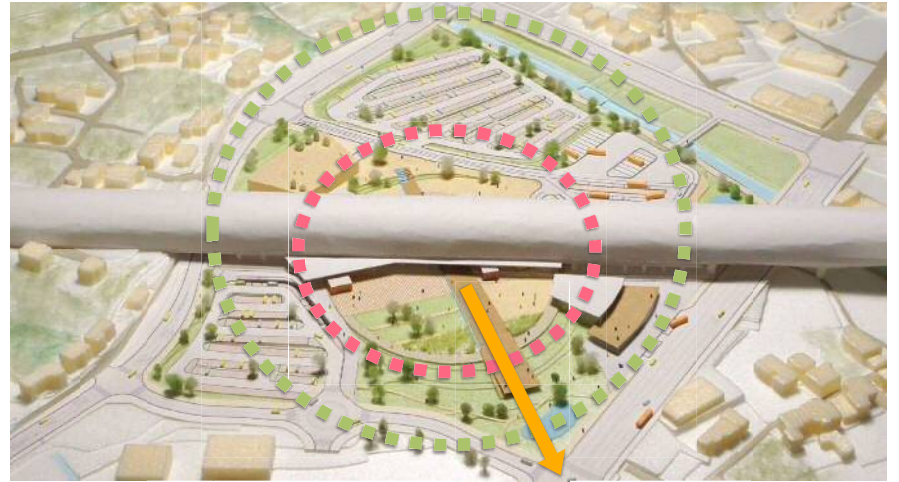
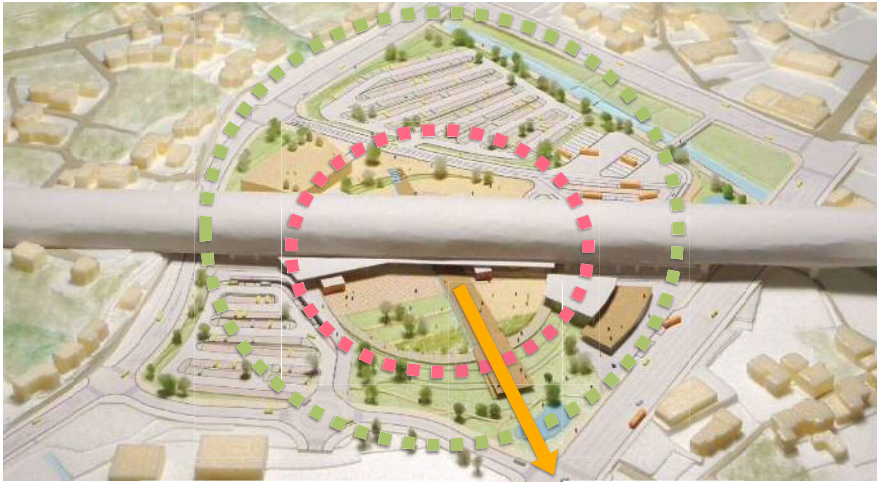
4. 「現在と未来」を結う







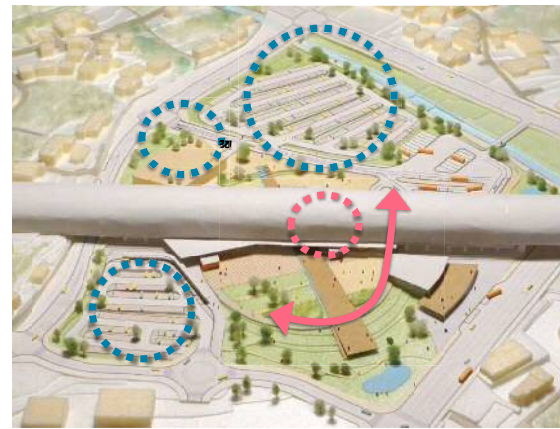
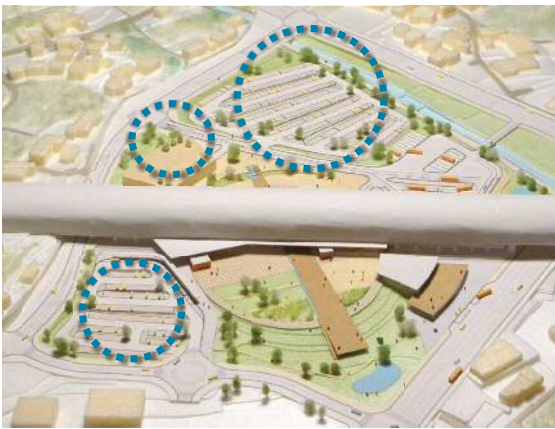




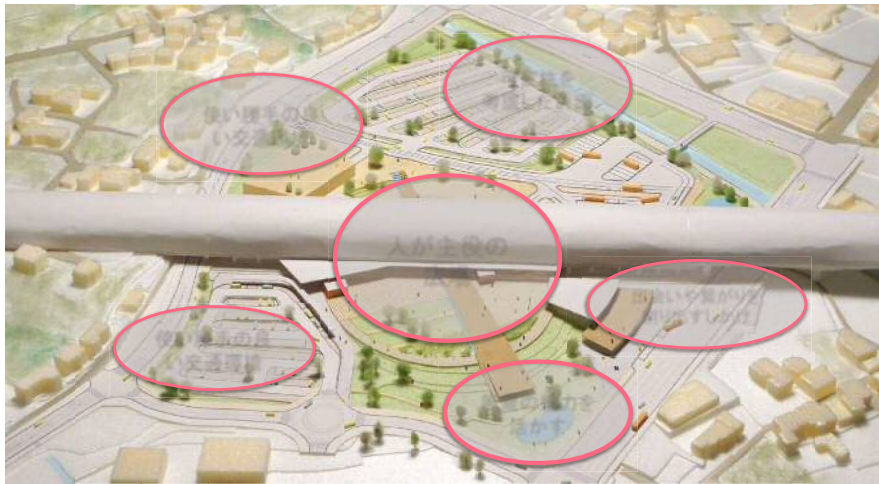






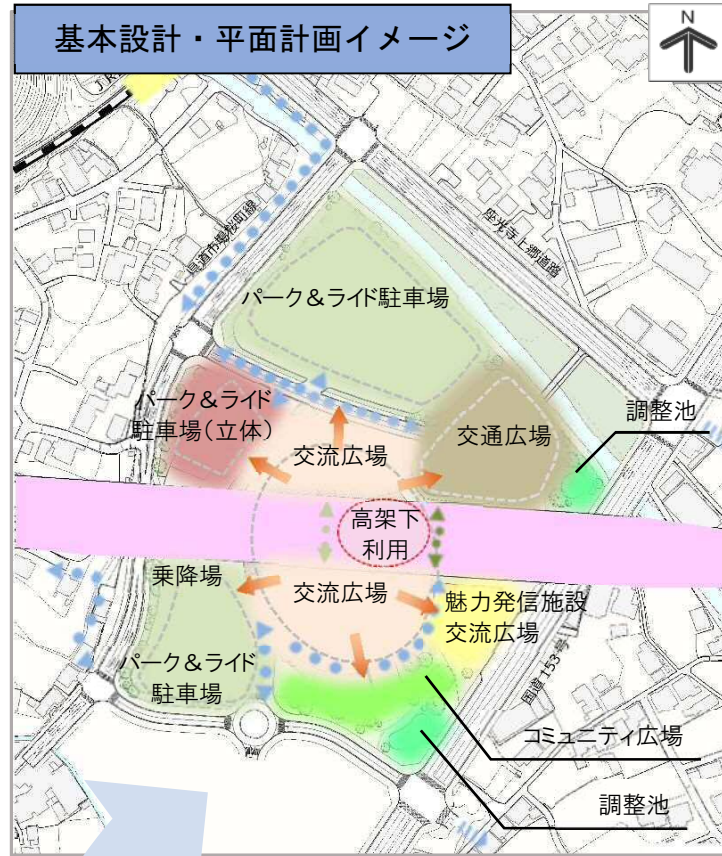








基本設計・平面計画イメージ



基本設計・平面計画における主な設計検討の方針

- ① 信州・伊那谷の風景と出会い、地域による活動が展開され、交通施設や交流施設への移動空間となる広場を、コンコースを囲む中央部に配置を検討
- ② 現況地形の改変を最小限に留め、周辺とゆるやかにつながるよう、コンコースの高さ設定を検討
- ③ 北口交通広場は、コンコースから昇降設備を利用せず、段差なく交通広場まで移動できるよう配置を検討  
南口交通広場は、乗降場をパーク＆ライド駐車場内に配置し、コンパクトな交通広場の配置を検討
- ④ 広場が地域の人たちや来訪者の憩いやイベントの場となることを目指し、魅力発信機能と生活利便機能を持った施設配置を検討



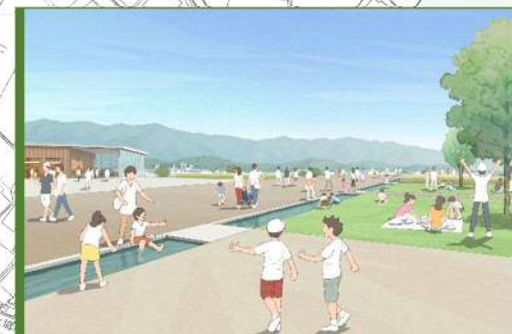
高架下から北口交流広場(イメージパース)



【イメージ】立体駐車場屋上(グリーンインフラ)



【イメージ】立体駐車場(景観配慮)



南口交流広場(イメージパース)



【イメージ】高架下空間(おもてなし・交流)



R153号から魅力発信施設(イメージパース)

基本計画における課題解消と改善検討

■基本計画における主な課題

- ・ユニバーサルデザイン、バリアフリーへの配慮
- ・現況地形(地形の改変の少ない)を活かした広場整備
- ・利用者の乗り換え利便性
- ・自動運転やカーシェアリングなどの今後の社会動向への配慮 等

基本計画・平面計画イメージ





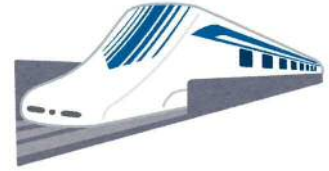
# リニア駅周辺整備 ワークショップだより

平成 30 年 3 月発行

vol. 1

## ●リニア駅周辺を考えるワークショップがはじまりました！！

2月21日に「第1回 リニア駅周辺整備に関するワークショップ」を開催しました。当日は飯田市内外にお住まいの方や事業をされている方、高校生から80代まで、幅広い職業、世代の方々、総勢37名にご参加いただきました。



2027年に開業するリニア駅を含めた周辺が、どんな空間になったらよいかということについて意見交換を行いました。意見交換では、リニア駅の使い方のイメージや飯田・伊那谷が持つ魅力を活かすアイデアなどさまざまな意見が出されました。

### ワークショップとは？

さまざまな立場の人が集まって、同じ土俵で意見を出し合い、共に創造したり作業を行いながら、意見をまとめ上げていく手法です。

他の参加者の意見を聞くことで、思いもよらなかった発見があるかもしれません。



## ●第1回ワークショップの概要

### 開催実績

◆日時：平成30年2月21日（水）  
18:30～20:30

◆会場：飯田市役所

◆参加者数：37名

### ◆ワークショップの内容

1. 進め方などについてのガイダンス
2. グループごとの意見交換
3. グループ代表者による発表
4. 全体での意見交換結果のまとめ

「リニア駅周辺整備のコンセプト」や「整備にあたって大切にしたいこと」について、4つのグループに分かれて意見交換を行いました。

また、各グループの代表者に意見交換の結果を発表していただき、参加者全体で共有しました。

### ご存知ですか？ リニア駅のできる位置

リニア長野県駅は飯田市街地から北東に約3kmの上郷飯沼付近（国道153号、県道市場桜町線、土曾川に囲まれた区域）に設置されます。

JR飯田線にも近接していることから、伊那上郷駅と元善光寺駅の間に乗り換えのための新駅の設置が検討されています。



## ●ワークショップで出された主な意見

リニア駅周辺の整備にあたって大切にしたいこと、こんな空間にしたいというイメージについて、参加者それぞれの思いが語られ、活発な意見交換が展開されました。

### 【風景・景観】

- 地形や山の眺望、農の風景などこの地域の特徴を活かす
- リニア軌道が景観に及ぼす影響に配慮
- 音やにおいなどの五感も大切に など

### 【新たなつながりや愛着を生む場所】

- 伊那谷全域に誘い出すきっかけを提供
- この駅でしかできない体験を提供
- リニア駅が外から飯田・伊那谷を訪れる目的の一つになるように など

### 【変化に対応・柔軟な利用】

- 環境、ITなどの技術の進歩への対応
- 将来のライフスタイルへの対応 など

### 【来訪者・地域住民の居場所】

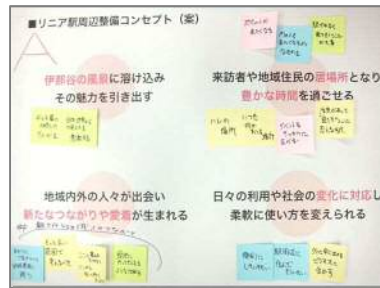
- 誰もが利用しやすい空間
- 日常的に地元の人が気軽に来られる場所
- 家族連れや学生などの若い世代が過ごせる場所
- リニアに乗る目的以外でも来たくなる場所
- 来訪者もゆったり過ごせる場所
- にぎわいのある（いつも人がいる）場所
- 冬の寒さ、夏の暑さへの対応 など

### 【その他】

- 車を運転できない人（中高生など）が来やすい交通手段の確保
- 乗り換え利便性の確保
- リニア駅周辺に暮らす人たちへの配慮 など



■意見交換の様子



■意見が貼り出された模造紙



■代表者による発表の様子

## ●今後の予定

### ✓ 開催スケジュールについて

平成30年末までに数ヶ月に1回のペースで5回程度の開催を予定し、「魅力ある空間にするための使い方・過ごし方＝“コト”」から、リニア駅のあり方を考えます。

### ✓ 参加者募集について

開催回ごとに参加者募集を行いますので、第2回からの参加も歓迎します。

あなたもリニア駅周辺のあり方を一緒に考えませんか？

### 第2回ワークショップの開催について

#### ▶ テーマ（予定）

- 「リニア駅周辺コンセプト」や「整備にあたって大切にしたいこと」(第1回を踏まえた内容)について
- 駅周辺の大まかな機能配置について(たたき案をもとに意見交換を行います)

#### ▶ 開催時期

平成30年5月以降  
(平日の夜を予定)



詳細は市HPや広報などでお知らせします。

問い合わせ先 飯田市役所 リニア推進部 リニア整備課

☎ : 0265 (22) 5361

FAX : 0265 (22) 5371

✉ : linear@city.iida.nagano.jp



## 第1回 ワークショップ開催風景

### ■ ガイダンスの様子



### ■ 意見交換（グループごと）の様子

A グループ



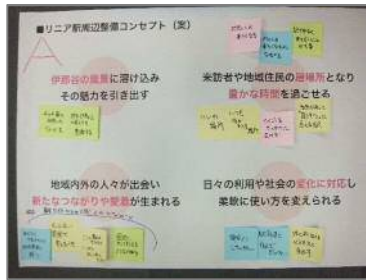
B グループ



C グループ



D グループ



### ■ 代表者による発表の様子

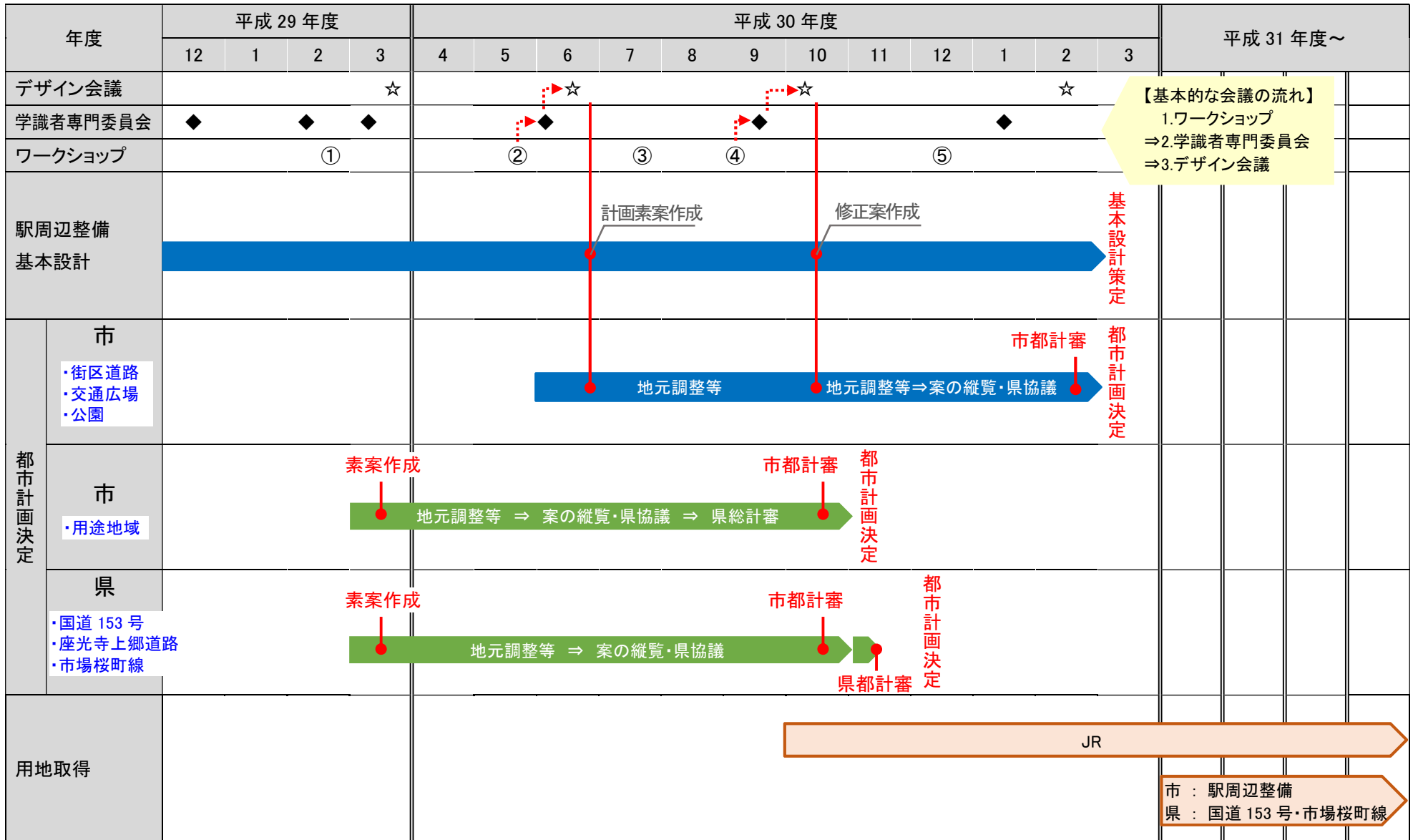


### ■ 意見交換結果のまとめ（全体）の様子





■都市計画決定に関するスケジュール（案）





（仮称）リニア駅前空間デザインノート（案）

■目的と方針

長期間かつ多くの関係者が絡むプロジェクトを適切に進めていくためには、計画・設計・施工に至る様々な段階で、立ち戻ることのできる“計画の柱”をまとめておくことが重要だと考えます。

そこで基本設計と並行し、リニア駅前の考え方や目指す空間像を、地域の人々や多くの関係者・関係機関と共有するための資料として、『（仮称）リニア駅前空間デザインノート』の作成を提案します。

本資料は、市民向けのパンフレットにもなり、また関係機関や将来の設計者・施工者などへの説明資料・意思伝達資料になるものを目指します。そのため、模型写真やパースなどビジュアルな資料に加え、できるだけ専門用語を用いない説明により、コンパクトでありながら、計画の考え方をきちんと伝えられる資料とします。

また計画の内容については、市民ワークショップ・学識者委員会・デザイン会議での議論内容や意見を踏まえ、市民協働によるリニア駅前の計画を取りまとめたものとします。

■デザインノートの構成案

現段階での構成案は下記を想定しています。

1. リニア駅前のテーマ・コンセプト

地域やエリアの特徴や魅力も含め、テーマやコンセプトを記載

2. 計画全体の考え方

コンセプトを実現するために大切にすべきことを、駅前空間の全体イメージとともに記載

3. エリアごとの考え方

北口広場、南口広場など、それぞれのエリアごとに空間イメージや活動イメージ、また設計において重要視すべきことを記載

4. 全体にかかる統一事項

舗装などの素材や色彩、植栽など、駅前全体で統一する要素についての考え方を記載

5. 新しい交通やエネルギーなどの将来ビジョン

近い将来に実現する可能性の高い最新技術を踏まえた駅前空間の将来ビジョンを記載

参考イメージとして

①吉里吉里地区デザインノート（岩手県大槌町吉里吉里地区・2014）

地域住民とのワークショップにより取りまとめた大槌町の復興計画案。本計画をベースに詳細設計が進められた。また地域協働の計画案であることから、国や県、施工者との協議時に大きな効果を発揮した。8ページで構成され、全体の考え方や重要な場所の考え方について、ワークショップの意見も記載しまとめられている。

②南町田拠点創出まちづくりプロジェクトにおける景観形成の考え方ノート（東京都町田市・2016）

東急田園都市線の南町田駅周辺では、東急の商業施設・クランベリーモールのリニューアルに伴い、隣接する市の鶴間公園と連動した整備が計画されている。計画の柱づくりや市民への情報共有を目的とし、市の景観審議会が中心となり、市や東急電鉄とともに作成した資料。

11ページで構成され、全体の考え方や重要な場所の考え方についてまとめられている。

①吉里吉里地区デザインノート

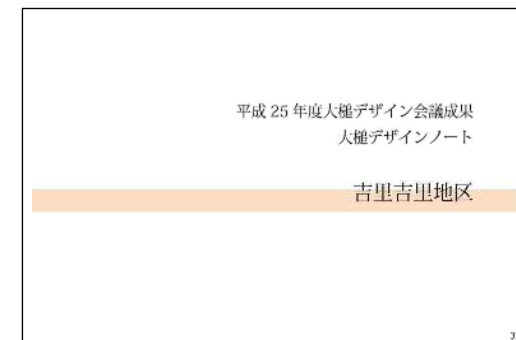
構成（表紙含め8ページ）

- まちづくりの方針と計画の考え方
- エリアごとの考え方
  1. みんなの集まるまちの広場
  2. まちなか区間 <まちと海をつなぐ海の軸>
  3. 2号街区公園区間 <まちと海をつなぐ海の軸>
  4. 海の軸から繋がる海の広場と砂浜
  5. 歩きやすい道と緑あふれる町並み
- 模型写真

まちづくりの方針と計画の考え方



計画全体の見取り図、重要なことは全て記載し、重要なエリアについての詳細は次頁以降で説明



エリアごとの考え方：1. みんなの集まるまちの広場



重要なエリアごとに、パースや図面、参考写真などビジュアルな資料で説明、ワークショップの意見も記載

②南町田拠点創出まちづくりプロジェクトにおける景観形成の考え方ノート

構成（表紙含め11ページ）

- 地区の特性・拠点整備方針
- 地区全体コンセプト
- ゾーンごとの景観形成の考え方
  - 3- (1) 融合ゾーン(地形広場周辺)
  - 3- (2) 鶴間公園(全体デザイン方針)
  - 3- (2) 鶴間公園(各エリアの方針)
  - 3- (3) 駅前空間+商業施設(歩行者ネットワーク)
  - 3- (4) 沿道景観
  - 3- (5) 都市型住宅(住み替え)
- 全体にかかるデザイン

地区全体コンセプト



コンセプトをビジュアルな資料とともに記載



ゾーンごとの景観形成の考え方(全体)



全体の見取り図とゾーン分け